

Gemini CLI 実践ハンズオン

AIとの対話で作るToDoアプリ開発記

このスライドについて

このスライドは、AI（Gemini）との**実際の対話ログ**を元に、ToDoアプリをゼロから開発した手順を再現したものです。

ここに書かれている「**あなたの指示**」を順番に実行するだけで、このハンズオンを完全に追体験できます。

フェーズ1: 企画と設計

AIを壁打ち相手に、プロジェクトの骨子を固めます。

Step 1: アイデアの壁打ち

まずは、どんなアプリを作るかAIに相談します。AIに選択肢を提案させることで、プロジェクトの方向性を明確にします。

あなたの指示:

“ 壁打ちをしてください。GeminiCLIを学ぶためにGeminiCLIで開発をするハンズオンを考えたいです。コード生成、function calling、mcpサーバーなど基本的なことが学べちょうどよいサイズのお題候補を考えてください。 ”

Step 2: 計画の文書化

良いアイデアが固まったら、すぐにファイルに残してもらいます。思考のプロセスを記録しておくことが重要です。

あなたの指示:

“ markdownファイルに出力してください ”

Step 3: ハンズオン計画の立案

具体的な開発手順を、AI自身にステップ・バイ・ステップで作成させます。これが後の自動実行の「設計図」になります。

あなたの指示:

“ OKです。ハンズオン資料なのでステップごとに手順を記載してください。

出力したものはhandsonフォルダにステップ番号をファイル名にしたmdに書き出してください。 ”

フェーズ2: 実装と発展

設計図に基づき、AIに実際の開発作業を指示します。

Step 4: アプリの自動実行とGUI化

作成した手順書に従って、まずはCUIアプリを自動で構築させます。
そこから自然な流れでGUIの追加を要求します。

***あなたの指示:**

“ gitignoreされた_demoフォルダを作成し、ハンズオンを最後まで流してください。

UIはないんですけどっけ

UI要素を入れてください

”

Step 5: リアルタイム更新機能の実装

さらに一歩進んで、高度な機能を要求します。AIが課題（プロセスの分離）を自ら認識し、解決策（`watchdog`）を提案・実装する様子が見どころです。

あなたの指示:

“ MCPでタスクがCRUDされたときにPythonのUIがリアルタイムで変更できますか？ ”

フェーズ3: ドキュメント化と仕上げ

プロジェクトの成果をまとめ、誰でも再現できるようにします。

Step 6: ハンズオン資料の完成

実装したGUI化やリアルタイム更新の章を、既存の資料に追記させ、ドキュメントを最新の状態に保ちます。

あなたの指示:

“ ここまでの内容をハンズオンのテキストに追加してください。

Claude CodeなどにMCPを設定するJSONの設定をハンズオンに記載して

”

Step 7: 成果物のプレゼン作成

最終成果物として、Marp形式のスライドとPDFを作成させます。開発からプレゼン資料作成まで、すべてAIとの対話で完結させます。

あなたの指示:

“ slideフォルダを作成してmarp形式で手順スライドにしてください。

marp コマンドでPDFを生成して

”

まとめ：対話による開発

このハンズオンは、以下の対話で締めくくられました。

あなたの指示:

“ このやり取り事態がハンズオンですね。いま自分からあなたに指示した内容を列挙してファイルに書き込んでください。 ”

AIとの対話を通じて、アイデア出しから実装、資料作成まで、開発の全工程がシームレスに繋がりました。これがGemini CLIの提供する新しい開発体験です。